



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒228 神奈川県相模原市麻溝台2の1の1
TEL: 0427-48-9111 FAX: 0427-45-5582
発行者：比企能樹
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部広報担当委員・村田宣夫
印刷：Dig印刷 Tel: 03-3551-3060
年1回発行 1995年4月創刊

万国外科学会 (ISS/SIC) による国際外科週間 (International Surgical Week) 来年夏開催！

Acapulco での Surgical Week への期待

万国外科学会
日本支部長
比企 能樹
(北里大学東病院長)



いよいよ明年は恒例の万国外科学会が行なわれる年です。37th World Congress of Surgery は、8月24日より30日までメキシコのアカプルコでの開催を予定しています。

今回は日本人会員が200名を越して、正式に日本支部会と認定された初めての学会ということになります。これは、米国、ドイツに次いで世界で3番目の active member をもつ国ということです。前回のリスボンでの学会 (1995) では、厳しい採用率にも拘らず、わが国からは434題と世界一の演題数が採用されました。

本学会は、ご承知の通り世界で最も古い伝統をもつ外科の国際学会であり、本部からの初参加は九州帝国大学三宅速教授の第7回ローマ大会 (1926) よりであります。今まで日本人が、学会の実質的な事業にどれほど貢献してきたかという、1977年京都において斎藤潤会長ののもとで島田信勝先生、石川浩一先生の御協力により本学会を開催しましたが、それ以降はヨーロッパの国々と比べてみるとまだまだ消極的であったことは否めません。

しかし、前々回の香港、前回のリスボンの学会あたりから、わが国の若い医師の参加が活発になり、世界の檯舞台へ積極的に進出する姿が目立つようになりました。この事実は誠に同慶にたえません。

また特に、出月康夫教授が日本から世界における万国外科学会会長として選出され、引き受けられることになったことは、日本の外科にとって特筆されるべき出来事であったと受けとめます。従って、第37回のアカプルコでの学会は、日本支部会としても、独自の立場を尊重しつつ勇躍する、絶好のチャンスであると考えます。

特に若い世代の皆さん、世界の舞台に飛びだしてゆくチャンス到来として、挑戦されんことを切に期待いたします。

万国外科学会、第37回アカプルコ総会の意義

万国外科学会
日本支部事務局長
山川 達郎
(帝京大学医学部付属
溝口病院)



1902年のベルギー外科学会で、招待されたスイス、フランス、ドイツなどの外科医をまじえての話し合いで、外科学の進歩のためには世界との交流が必要であるとの観点から、この万国外科学会の設立が決定されたと言われています。そして1905年、後にノーベル医学賞を受賞したスイスのTheodor Kocherを初代のCongress Presidentとして第1回総会がベルギーで開かれました。その後のCongress Presidentの顔ぶれをみると、教科書の上でお馴染みの有名な大先人達が絢爛とそのお名前を連ねています。まさに万国外科学会の歴史は外科学の歴史であります。そういった意味において、本会は世界で最も長い歴史と伝統に輝く権威ある国際学会であるということが出来ます。

1995年、出月教授はCongress Presidentとしてリスボンで第36回の総会を主催され、その後2年間の任期でPresidentとしての重責をおつとめであります。現在、日本は世界第2の会員数を誇りますから当然のことと言え言えないことありませんが、これまでの万国外科学会の歴史を振り返ってみますと、これは私ども会員にとっては素晴らしい朗報であり、今までになかった一大事であることを認識させられます。今後は今まで以上に日本人にも活躍の場が与えられるに違いありません。またここまで築かれた万国外科学会の中での日本の地位を維持していかなくてはならないと思います。

来年、メキシコの南部、太平洋岸に位置する国際的な観光、保養地として有名なアカプルコで開催される第37回万国外科学会、前述した意味において極めて重要な学会です。簡単に行ける所ではありませんので、多数の会員が参加して下さり、日本の意気を世界に顕示して下さることを期待しています。

日本部会としては、これから組織だった活動が続けると同時に、受賞候補者や座長あるいはシンポジストなどの推薦なども本部に積極的に働きかけていきたいと考えています。

INTERNATIONAL
SURGICAL WEEK 1997

August 24-30, 1997, Acapulco, Mexico

第37回万国外科学会・国際外科週間へのお誘い

万国外科学会
会長
出月 康夫
(埼玉医科大学
総合医療センター)



第37回万国外科学会 (37th World Congress of Surgery) は、明年8月24日～8月30日、メキシコのアカプルコ市で開催されます。前回と同様に外科の各領域の国際学会と合同して国際外科週間 (International Surgical Week) として盛大に行われる予定で、現在準備が着々と進められています。この日本支部ニュースが会員の皆様のお手許に届く頃には、スイスの本部から直接にアカプルコの学会の御案内 (First Circular) が届けられていると思います。

ご承知のように、万国外科学会は外科領域では世界で最も古く1902年に設立された長い輝かしい伝統のある国際学会です。第1回の学会は1905年にKocher (スイス) を会長として開催されました。爾来、2年毎または3年毎に開催されており、最近では2年毎に、多くの外科の専門領域の国際学会を集めて国際外科週間として開催され、最も権威のある外科国際学会として世界の外科医が集まる外科の最大のイベントとなっています。

Plenary Sessionの他に、各々の専門領域のSymposium、Workshop、Free Paper、Poster Session、Video Session、Luncheon Panelなどバラエティに富んだプログラムが組まれています。分岐の進む外科領域では唯一の総合的な学会として高い評価を得ています。

それぞれの領域の国際学会が準備する専門領域のシンポジウムやパネルには、その領域の最高の権威が参加して最先端のトピックスが取り上げられる予定です。一方では日常臨床にすぐ役立つ古くて新しい話題も取り上げられており、いろいろなレベルでこの国際外科週間を御利用いただきたいと思います。

同時に行われる地方色豊かなソーシャルプログラムも、この国際外科週間の目玉の一つで、メキシコのLocal Organizing Committee (President: Dr. Jorge Cervantes) も、大いに張り切っていますので、こちらも大いに楽しんでいただきたいと思います。

昨年行われたリスボンでの国際外科週間にはわが国から多数の先生方にご参加をいただき、学会を一段と盛り上げていただきましたが、明年のアカプルコへも、是非、ご参加いただき、わが国の外科を世界に向けて大いにアピールしていただきたいと思います。また、これを機会に新しい会員を御勧誘いただくようお願い致します。

アカプルコは、メキシコ最大のリゾートでもあり、マリンスポーツなど、ご家族連れで楽しむ設備も完備しています。来年の夏休みのプログラムに、予定されてはいかがですか？

主な掲載内容

- 国際外科週間に向けて——ご挨拶
- 新入会員の紹介
- ISS/SIC 規約抜粋
- アカプルコ寸描・アカプルコ紀行

万国外科学会（ISS/SIC）に本年入会された先生方

医師御芳名	ふりがな	病医院名	所属	入会年月日
愛甲 孝	あいこうたかし	鹿児島大学医学部	第一外科	1996/1/1
青木克憲	あおきかつのり	浜松医科大学	救急部	1996/1/1
青山法夫	あおやまのりお	神奈川県立がんセンター	外科第1科	1996/6/1
秋丸琥甫	あきまるこほ	総合会津中央病院	第二外科	1996/1/1
麻賀太郎	あさがたろう	神奈川県立がんセンター	第二外科	1996/1/1
浅原利正	あさはらとしまさ	広島大学医学部付属病院	第二外科	1996/1/1
荒木靖三	あらきやすみ	久留米大学医療センター	外科	1996/1/1
有馬純孝	ありますみとか	福岡大学筑紫病院	外科	1996/1/1
磯崎博司	いそざきひろし	大阪医科大学	一般・消化器外科	1996/1/1
市原 透	いちはらとおる	国立名古屋病院	外科	1996/1/1
伊藤 雅	いとうただし	財団法人倉敷中央病院	外科	1996/1/1
伊藤雅史	いとうまさし	東京医科歯科大学	第2外科	1996/3/1
今井常夫	いまいつねお	名古屋大学医学部	第二外科	1996/1/1
岩佐正人	いわさまさひと	高知医科大学	第二外科	1996/1/1
梅本 淳	うめもとあつし	徳島大学医学部	第二外科	1996/1/1
大谷吉秀	おおたによしひで	慶應義塾大学医学部	外科	1996/1/1
沖永功太	おきなこうた	帝京大学医学部	第二外科	1996/1/1
小高明雄	おだかあきお	埼玉医科大学総合医療センター	第二外科	1996/1/1
恩田昌彦	おんだまさひこ	日本医科大学	第一外科	1996/1/1
柿田 章	あきたあきら	北里大学	外科	1996/5/1
加藤孝男	かとうたかお	東京女子医科大学	第二外科	1996/1/1
金田悟良	かねだごろう	国立相模原病院	外科	1996/1/1
亀岡信悟	かめおかしんご	東京女子医科大学	第二外科	1996/1/1
川原克信	かわはらかつひ	福岡大学医学部	第二外科	1996/1/1
川本 徹	かわもととおる	筑波大学附属病院	消化器外科	1996/5/1
喜多村邦弘	きたむらくにひろ	福岡大学筑紫病院	外科	1996/1/1
北村正次	きたむらまさつぐ	東京都立駒込病院	外科	1996/1/1
倉内宣明	くらうちのみあき	国立療養所西札幌病院	外科	1996/1/1
黒田孝井	くろだたかい	信州大学医学部	第二外科	1996/1/1
坂井義治	さかいよしはる	京都大学医学部付属病院	外科	1996/1/1
佐竹克介	さたけかつすけ	大阪市立大学医学部	第一外科	1996/1/1
佐藤信昭	さとうのぶあき	新潟大学医学部	第一外科	1996/1/1
嶋尾 仁	しまおひとし	北里大学東病院	消化器外科	1996/1/1
嶋田 裕	しまだゆたか	京都大学医学部付属病院	第一外科	1996/1/1
白井良夫	しらいよしお	新潟大学医学部	第一外科	1996/1/1
杉野公則	すぎのきみのり	伊藤病院	外科	1996/6/1
砂川正勝	すなかわまさかつ	獨協医科大学	第一外科	1996/1/1
添田良知	そえだよしとも	獨協医科大学	第一外科	1996/1/1
高橋 伸	たかはししん	慶應義塾大学医学部	外科	1996/1/1
高橋俊雄	たかはしとしお	京都府立医科大学	第一外科	1996/1/1
高橋 広	たかはしひろし	愛媛大学医学部	第二外科	1996/1/1

※今年6月に学会本部より届いた会員名簿をもとに作成しました。所属・名前共に英語から起こしたものです。もし誤りがございましたら、日本支部まで御連絡下さい。

田尻 孝	たじりたかし	日本医科大学	第一外科	1996/1/1
田中洋一	たなかよういち	埼玉県立がんセンター	腹部外科	1996/1/1
丹正勝久	たんしょうかつひさ	日本大学医学部	第一外科	1996/1/1
藤 洋吐	とうひろと	産業医科大学	第一外科	1996/1/1
富岡 勉	とみおかつとむ	長崎大学医学部	第二外科	1996/1/1
富田涼一	とみたりょういち	日本大学医学部	第一外科	1996/1/1
豊坂昭弘	とよさかあきひろ	兵庫医科大学	第一外科	1996/1/1
鳥井剛司	とりいつよし	医療法人社団鳥井医院	理事長	1996/1/1
中谷寿男	なかたにとしお	帝京大学医学部付属病院	救命救急センター	1996/1/1
中村 達	なかむらさとし	浜松医科大学	第2外科	1996/3/1
長山正義	ながやまさよし	大阪市立大学医学部	第一外科	1996/1/1
梨本 篤	なしもとあつし	県立がんセンター新潟病院	外科	1996/1/1
波江野力	なみえのつとむ	北海道大学医学部	第一外科	1996/1/1
橋爪 誠	はしづめまこと	九州大学医学部付属病院	第二外科	1996/1/1
馬場政道	ばばまさみち	鹿児島大学医学部	第一外科	1996/1/1
濱路政靖	はまじまさやす			1996/1/1
万代恭嗣	ばんだいやすつぐ	社会保険中央総合病院	副院長	1996/1/1
広橋一裕	ひろはしかずひろ	大阪市立大学医学部	第二外科	1996/1/1
藤森 実	ふじもりみのる	信州大学医学部	第二外科	1996/1/1
帆北修一	ほきたしゅういち	鹿児島大学医学部	第一外科	1996/1/1
幕内博康	まくうちひろやす	東海大学医学部付属病院	外科	1996/5/1
松本慎一	まつもとしんいち	神戸大学医学部付属病院	第一外科	1996/1/1
松本純夫	まつもとすみお	藤田保健衛生大学第2教育病院	外科	1996/3/1
松本由朗	まつもとよしろう	山梨医科大学	第一外科	1996/1/1
真船健一	まふねけんいち	埼玉県立がんセンター	腹部外科	1996/1/1
宮川秀一	みやかわしゅういち	藤田保健衛生大学医学部	外科	1996/1/1
宮川真一	みやがわしんいち	信州大学医学部	第一外科	1996/1/1
宮地和人	みやちかずひと	獨協医科大学	第一外科	1996/1/1
村尾佳則	むらおよしり	奈良県立医科大学	救急医学	1996/1/1
村上三郎	むらかみさぶろう	埼玉医科大学	第二外科	1996/1/1
村上卓夫	むらかみたくお	岩国市医療センター医師会病院		1996/1/1
村田厚夫	むらたあつお	大阪大学医学部付属病院	第二外科	1996/1/1
八十島孝博	やそしまたかひろ	札幌医科大学医学部付属病院	第一外科	1996/1/1
山崎喜代美	やまざきよみ	東京女子医科大学	内分泌外科	1996/1/1
山下精彦	やましたきよひこ	日本医科大学	第一外科	1996/1/1
山下芳典	やましたよしり	広島大学原爆放射能医学研究所	腫瘍外科	1996/1/1
山中若樹	やまなかなおき	兵庫医科大学	第一外科	1996/1/1
行岡哲男	ゆきおかてつお	杏林大学	救急医学	1996/5/1
横山逸男	よこやまいつお	名古屋大学医学部	第二外科	1996/1/1
吉本賢隆	よしもとまさたか	癌研究会附属病院	外科	1996/3/1
米村 豊	よねむらゆたか	金沢大学医学部	第二外科	1996/1/1

Anti Free Radical & PG Inducer



ムコスタの特徴

- 胃粘膜のPG増加作用・フリーラジカル抑制作用を併せ持つ初めての胃炎・胃潰瘍治療剤です(ヒト・ラット・in vitro)。
- NSAIDsやHelicobacter pylori(in vitro)などによる胃粘膜傷害を抑制します。
- COOH⁺を高め、再発・再燃を抑制します(ラット)。
- 胃炎***、特にびらん・出血に優れた効果を示します。
- 副作用発現率は0.69%(43/6,275)でした。主な副作用は、便秘(6件)、GPT上昇(5件)等でした。

*** NSAIDs: non-steroidal anti-inflammatory drugs(非ステロイド性消炎薬)
*** COOH⁺: Quality of ulcer healing (潰瘍治癒の質)
*** 胃炎: 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

【効能・効果】
●胃潰瘍
●下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

【用法・用量】
●胃潰瘍
通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
●下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期
通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回経口投与する。

【使用上の注意】 抜粋
副作用(まれに: 0.1%未満、ときに: 0.1~5%未満、副詞なし: 5%以上又は頻度不明)
1.過敏症: まれに発疹、痒痒感、薬疹様皮膚等の過敏症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。
2.消化器: 口乾、また、まれに便秘、腹部膨満感、下痢、嘔気、嘔吐、胸やけ、腹痛、けいふ等があらわれることがある。
3.肝 臓: まれにGOT、GPT、γ-GTP、ALPの上昇等の肝機能障害があらわれることがある。
4.血 液: まれに白血球減少があらわれることがある。
5.その他: 尿酸腫痛、乳汁分泌過多、月経異常、めまい、また、まれにBUN上昇、浮腫、顔面部浮腫等があらわれることがある。
※その他の使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

胃炎・胃潰瘍治療剤

ムコスタ錠 100

Mucosta[®] tablets レバミピド製剤

大塚製薬株式会社 大塚製薬株式会社 学術部
東京都千代田区神田町2-9
大塚製薬 神田第2ビル

(95.7作成)



抗悪性腫瘍剤

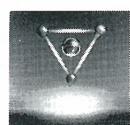
ランダ[®]注

シスプラチン製剤

※効能・効果、用法・用量、使用上の注意などは、製品添付文書をご参照ください。

資料請求先 **日本化薬株式会社**
東京都千代田区富士見一丁目11番2号

THE STRONG, BALANCED ANTIBACTERIAL AGENT



オキサセフェム系抗生物質製剤
フルマリン[®]
静注用0.5g・1g
日経薬 注射用プロモセファトリウム 略号FMOX

- グラム陽性菌から陰性菌まで、好気性菌、嫌気性菌を問わず均整のとれた強い抗菌力
- PBP-2^{*}を誘導しにくい。
- 副作用は 2.35%(78/3314例)に発現し、その主なものはアレルギー症状と胃腸症状であった。

■効能・効果 ドブ球菌属、レンサ球菌属(腸球菌を除く)、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、ブドウ球菌属、カタラクターラ菌、淋菌、大腸菌、フレッドネラ菌、プロテウス属、インフルエンザ菌、バクテロイデス属のうち本剤感受性による下記感染症。敗血症、感染性心内膜炎、外傷・手術創等の重症性二次感染、髄膜炎、扁桃炎、気管支炎、気管支炎後症候群、慢性呼吸器疾患の二次感染、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、淋菌性関節炎、胆道炎、胆管炎、胆管炎、骨髄炎、タグラ菌感染症、子宮内感染、骨髄炎、子宮炎、子宮頸管炎、バルトネラ菌感染症

■使用上の注意(一部抜粋)

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

- 一般的使用 (1)ショック発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。また、投与後患者を安静の状態に保てること。 (2)ショック発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。また、投与後患者を安静の状態に保てること。 (3)禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤の成分によるショックの既往歴のある患者
- 原則禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤を必要とする場合には慎重に投与すること (1) 本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対する過敏性の既往歴のある患者 (2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、鼻膜炎等のアレルギー症状を起し、やい、体質を有する患者 (3) 高度の腎障害のある患者(血中濃度の患者、高齢者、全身状態が悪い患者はビタミンK欠乏症候群があらわれることがあるので、投与中は慎重に投与すること) (4) 腎臓病(腎臓病) (5) 腎臓病(腎臓病) (6) 腎臓病(腎臓病) (7) 腎臓病(腎臓病) (8) 腎臓病(腎臓病) (9) 腎臓病(腎臓病) (10) 腎臓病(腎臓病) (11) 腎臓病(腎臓病) (12) 腎臓病(腎臓病) (13) 腎臓病(腎臓病) (14) 腎臓病(腎臓病) (15) 腎臓病(腎臓病) (16) 腎臓病(腎臓病) (17) 腎臓病(腎臓病) (18) 腎臓病(腎臓病) (19) 腎臓病(腎臓病) (20) 腎臓病(腎臓病) (21) 腎臓病(腎臓病) (22) 腎臓病(腎臓病) (23) 腎臓病(腎臓病) (24) 腎臓病(腎臓病) (25) 腎臓病(腎臓病) (26) 腎臓病(腎臓病) (27) 腎臓病(腎臓病) (28) 腎臓病(腎臓病) (29) 腎臓病(腎臓病) (30) 腎臓病(腎臓病) (31) 腎臓病(腎臓病) (32) 腎臓病(腎臓病) (33) 腎臓病(腎臓病) (34) 腎臓病(腎臓病) (35) 腎臓病(腎臓病) (36) 腎臓病(腎臓病) (37) 腎臓病(腎臓病) (38) 腎臓病(腎臓病) (39) 腎臓病(腎臓病) (40) 腎臓病(腎臓病) (41) 腎臓病(腎臓病) (42) 腎臓病(腎臓病) (43) 腎臓病(腎臓病) (44) 腎臓病(腎臓病) (45) 腎臓病(腎臓病) (46) 腎臓病(腎臓病) (47) 腎臓病(腎臓病) (48) 腎臓病(腎臓病) (49) 腎臓病(腎臓病) (50) 腎臓病(腎臓病) (51) 腎臓病(腎臓病) (52) 腎臓病(腎臓病) (53) 腎臓病(腎臓病) (54) 腎臓病(腎臓病) (55) 腎臓病(腎臓病) (56) 腎臓病(腎臓病) (57) 腎臓病(腎臓病) (58) 腎臓病(腎臓病) (59) 腎臓病(腎臓病) (60) 腎臓病(腎臓病) (61) 腎臓病(腎臓病) (62) 腎臓病(腎臓病) (63) 腎臓病(腎臓病) (64) 腎臓病(腎臓病) (65) 腎臓病(腎臓病) (66) 腎臓病(腎臓病) (67) 腎臓病(腎臓病) (68) 腎臓病(腎臓病) (69) 腎臓病(腎臓病) (70) 腎臓病(腎臓病) (71) 腎臓病(腎臓病) (72) 腎臓病(腎臓病) (73) 腎臓病(腎臓病) (74) 腎臓病(腎臓病) (75) 腎臓病(腎臓病) (76) 腎臓病(腎臓病) (77) 腎臓病(腎臓病) (78) 腎臓病(腎臓病) (79) 腎臓病(腎臓病) (80) 腎臓病(腎臓病) (81) 腎臓病(腎臓病) (82) 腎臓病(腎臓病) (83) 腎臓病(腎臓病) (84) 腎臓病(腎臓病) (85) 腎臓病(腎臓病) (86) 腎臓病(腎臓病) (87) 腎臓病(腎臓病) (88) 腎臓病(腎臓病) (89) 腎臓病(腎臓病) (90) 腎臓病(腎臓病) (91) 腎臓病(腎臓病) (92) 腎臓病(腎臓病) (93) 腎臓病(腎臓病) (94) 腎臓病(腎臓病) (95) 腎臓病(腎臓病) (96) 腎臓病(腎臓病) (97) 腎臓病(腎臓病) (98) 腎臓病(腎臓病) (99) 腎臓病(腎臓病) (100) 腎臓病(腎臓病) (101) 腎臓病(腎臓病) (102) 腎臓病(腎臓病) (103) 腎臓病(腎臓病) (104) 腎臓病(腎臓病) (105) 腎臓病(腎臓病) (106) 腎臓病(腎臓病) (107) 腎臓病(腎臓病) (108) 腎臓病(腎臓病) (109) 腎臓病(腎臓病) (110) 腎臓病(腎臓病) (111) 腎臓病(腎臓病) (112) 腎臓病(腎臓病) (113) 腎臓病(腎臓病) (114) 腎臓病(腎臓病) (115) 腎臓病(腎臓病) (116) 腎臓病(腎臓病) (117) 腎臓病(腎臓病) (118) 腎臓病(腎臓病) (119) 腎臓病(腎臓病) (120) 腎臓病(腎臓病) (121) 腎臓病(腎臓病) (122) 腎臓病(腎臓病) (123) 腎臓病(腎臓病) (124) 腎臓病(腎臓病) (125) 腎臓病(腎臓病) (126) 腎臓病(腎臓病) (127) 腎臓病(腎臓病) (128) 腎臓病(腎臓病) (129) 腎臓病(腎臓病) (130) 腎臓病(腎臓病) (131) 腎臓病(腎臓病) (132) 腎臓病(腎臓病) (133) 腎臓病(腎臓病) (134) 腎臓病(腎臓病) (135) 腎臓病(腎臓病) (136) 腎臓病(腎臓病) (137) 腎臓病(腎臓病) (138) 腎臓病(腎臓病) (139) 腎臓病(腎臓病) (140) 腎臓病(腎臓病) (141) 腎臓病(腎臓病) (142) 腎臓病(腎臓病) (143) 腎臓病(腎臓病) (144) 腎臓病(腎臓病) (145) 腎臓病(腎臓病) (146) 腎臓病(腎臓病) (147) 腎臓病(腎臓病) (148) 腎臓病(腎臓病) (149) 腎臓病(腎臓病) (150) 腎臓病(腎臓病) (151) 腎臓病(腎臓病) (152) 腎臓病(腎臓病) (153) 腎臓病(腎臓病) (154) 腎臓病(腎臓病) (155) 腎臓病(腎臓病) (156) 腎臓病(腎臓病) (157) 腎臓病(腎臓病) (158) 腎臓病(腎臓病) (159) 腎臓病(腎臓病) (160) 腎臓病(腎臓病) (161) 腎臓病(腎臓病) (162) 腎臓病(腎臓病) (163) 腎臓病(腎臓病) (164) 腎臓病(腎臓病) (165) 腎臓病(腎臓病) (166) 腎臓病(腎臓病) (167) 腎臓病(腎臓病) (168) 腎臓病(腎臓病) (169) 腎臓病(腎臓病) (170) 腎臓病(腎臓病) (171) 腎臓病(腎臓病) (172) 腎臓病(腎臓病) (173) 腎臓病(腎臓病) (174) 腎臓病(腎臓病) (175) 腎臓病(腎臓病) (176) 腎臓病(腎臓病) (177) 腎臓病(腎臓病) (178) 腎臓病(腎臓病) (179) 腎臓病(腎臓病) (180) 腎臓病(腎臓病) (181) 腎臓病(腎臓病) (182) 腎臓病(腎臓病) (183) 腎臓病(腎臓病) (184) 腎臓病(腎臓病) (185) 腎臓病(腎臓病) (186) 腎臓病(腎臓病) (187) 腎臓病(腎臓病) (188) 腎臓病(腎臓病) (189) 腎臓病(腎臓病) (190) 腎臓病(腎臓病) (191) 腎臓病(腎臓病) (192) 腎臓病(腎臓病) (193) 腎臓病(腎臓病) (194) 腎臓病(腎臓病) (195) 腎臓病(腎臓病) (196) 腎臓病(腎臓病) (197) 腎臓病(腎臓病) (198) 腎臓病(腎臓病) (199) 腎臓病(腎臓病) (200) 腎臓病(腎臓病) (201) 腎臓病(腎臓病) (202) 腎臓病(腎臓病) (203) 腎臓病(腎臓病) (204) 腎臓病(腎臓病) (205) 腎臓病(腎臓病) (206) 腎臓病(腎臓病) (207) 腎臓病(腎臓病) (208) 腎臓病(腎臓病) (209) 腎臓病(腎臓病) (210) 腎臓病(腎臓病) (211) 腎臓病(腎臓病) (212) 腎臓病(腎臓病) (213) 腎臓病(腎臓病) (214) 腎臓病(腎臓病) (215) 腎臓病(腎臓病) (216) 腎臓病(腎臓病) (217) 腎臓病(腎臓病) (218) 腎臓病(腎臓病) (219) 腎臓病(腎臓病) (220) 腎臓病(腎臓病) (221) 腎臓病(腎臓病) (222) 腎臓病(腎臓病) (223) 腎臓病(腎臓病) (224) 腎臓病(腎臓病) (225) 腎臓病(腎臓病) (226) 腎臓病(腎臓病) (227) 腎臓病(腎臓病) (228) 腎臓病(腎臓病) (229) 腎臓病(腎臓病) (230) 腎臓病(腎臓病) (231) 腎臓病(腎臓病) (232) 腎臓病(腎臓病) (233) 腎臓病(腎臓病) (234) 腎臓病(腎臓病) (235) 腎臓病(腎臓病) (236) 腎臓病(腎臓病) (237) 腎臓病(腎臓病) (238) 腎臓病(腎臓病) (239) 腎臓病(腎臓病) (240) 腎臓病(腎臓病) (241) 腎臓病(腎臓病) (242) 腎臓病(腎臓病) (243) 腎臓病(腎臓病) (244) 腎臓病(腎臓病) (245) 腎臓病(腎臓病) (246) 腎臓病(腎臓病) (247) 腎臓病(腎臓病) (248) 腎臓病(腎臓病) (249) 腎臓病(腎臓病) (250) 腎臓病(腎臓病) (251) 腎臓病(腎臓病) (252) 腎臓病(腎臓病) (253) 腎臓病(腎臓病) (254) 腎臓病(腎臓病) (255) 腎臓病(腎臓病) (256) 腎臓病(腎臓病) (257) 腎臓病(腎臓病) (258) 腎臓病(腎臓病) (259) 腎臓病(腎臓病) (260) 腎臓病(腎臓病) (261) 腎臓病(腎臓病) (262) 腎臓病(腎臓病) (263) 腎臓病(腎臓病) (264) 腎臓病(腎臓病) (265) 腎臓病(腎臓病) (266) 腎臓病(腎臓病) (267) 腎臓病(腎臓病) (268) 腎臓病(腎臓病) (269) 腎臓病(腎臓病) (270) 腎臓病(腎臓病) (271) 腎臓病(腎臓病) (272) 腎臓病(腎臓病) (273) 腎臓病(腎臓病) (274) 腎臓病(腎臓病) (275) 腎臓病(腎臓病) (276) 腎臓病(腎臓病) (277) 腎臓病(腎臓病) (278) 腎臓病(腎臓病) (279) 腎臓病(腎臓病) (280) 腎臓病(腎臓病) (281) 腎臓病(腎臓病) (282) 腎臓病(腎臓病) (283) 腎臓病(腎臓病) (284) 腎臓病(腎臓病) (285) 腎臓病(腎臓病) (286) 腎臓病(腎臓病) (287) 腎臓病(腎臓病) (288) 腎臓病(腎臓病) (289) 腎臓病(腎臓病) (290) 腎臓病(腎臓病) (291) 腎臓病(腎臓病) (292) 腎臓病(腎臓病) (293) 腎臓病(腎臓病) (294) 腎臓病(腎臓病) (295) 腎臓病(腎臓病) (296) 腎臓病(腎臓病) (297) 腎臓病(腎臓病) (298) 腎臓病(腎臓病) (299) 腎臓病(腎臓病) (300) 腎臓病(腎臓病) (301) 腎臓病(腎臓病) (302) 腎臓病(腎臓病) (303) 腎臓病(腎臓病) (304) 腎臓病(腎臓病) (305) 腎臓病(腎臓病) (306) 腎臓病(腎臓病) (307) 腎臓病(腎臓病) (308) 腎臓病(腎臓病) (309) 腎臓病(腎臓病) (310) 腎臓病(腎臓病) (311) 腎臓病(腎臓病) (312) 腎臓病(腎臓病) (313) 腎臓病(腎臓病) (314) 腎臓病(腎臓病) (315) 腎臓病(腎臓病) (316) 腎臓病(腎臓病) (317) 腎臓病(腎臓病) (318) 腎臓病(腎臓病) (319) 腎臓病(腎臓病) (320) 腎臓病(腎臓病) (321) 腎臓病(腎臓病) (322) 腎臓病(腎臓病) (323) 腎臓病(腎臓病) (324) 腎臓病(腎臓病) (325) 腎臓病(腎臓病) (326) 腎臓病(腎臓病) (327) 腎臓病(腎臓病) (328) 腎臓病(腎臓病) (329) 腎臓病(腎臓病) (330) 腎臓病(腎臓病) (331) 腎臓病(腎臓病) (332) 腎臓病(腎臓病) (333) 腎臓病(腎臓病) (334) 腎臓病(腎臓病) (335) 腎臓病(腎臓病) (336) 腎臓病(腎臓病) (337) 腎臓病(腎臓病) (338) 腎臓病(腎臓病) (339) 腎臓病(腎臓病) (340) 腎臓病(腎臓病) (341) 腎臓病(腎臓病) (342) 腎臓病(腎臓病) (343) 腎臓病(腎臓病) (344) 腎臓病(腎臓病) (345) 腎臓病(腎臓病) (346) 腎臓病(腎臓病) (347) 腎臓病(腎臓病) (348) 腎臓病(腎臓病) (349) 腎臓病(腎臓病) (350) 腎臓病(腎臓病) (351) 腎臓病(腎臓病) (352) 腎臓病(腎臓病) (353) 腎臓病(腎臓病) (354) 腎臓病(腎臓病) (355) 腎臓病(腎臓病) (356) 腎臓病(腎臓病) (357) 腎臓病(腎臓病) (358) 腎臓病(腎臓病) (359) 腎臓病(腎臓病) (360) 腎臓病(腎臓病) (361) 腎臓病(腎臓病) (362) 腎臓病(腎臓病) (363) 腎臓病(腎臓病) (364) 腎臓病(腎臓病) (365) 腎臓病(腎臓病) (366) 腎臓病(腎臓病) (367) 腎臓病(腎臓病) (368) 腎臓病(腎臓病) (369) 腎臓病(腎臓病) (370) 腎臓病(腎臓病) (371) 腎臓病(腎臓病) (372) 腎臓病(腎臓病) (373) 腎臓病(腎臓病) (374) 腎臓病(腎臓病) (375) 腎臓病(腎臓病) (376) 腎臓病(腎臓病) (377) 腎臓病(腎臓病) (378) 腎臓病(腎臓病) (379) 腎臓病(腎臓病) (380) 腎臓病(腎臓病) (381) 腎臓病(腎臓病) (382) 腎臓病(腎臓病) (383) 腎臓病(腎臓病) (384) 腎臓病(腎臓病) (385) 腎臓病(腎臓病) (386) 腎臓病(腎臓病) (387) 腎臓病(腎臓病) (388) 腎臓病(腎臓病) (389) 腎臓病(腎臓病) (390) 腎臓病(腎臓病) (391) 腎臓病(腎臓病) (392) 腎臓病(腎臓病) (393) 腎臓病(腎臓病) (394) 腎臓病(腎臓病) (395) 腎臓病(腎臓病) (396) 腎臓病(腎臓病) (397) 腎臓病(腎臓病) (398) 腎臓病(腎臓病) (399) 腎臓病(腎臓病) (400) 腎臓病(腎臓病) (401) 腎臓病(腎臓病) (402) 腎臓病(腎臓病) (403) 腎臓病(腎臓病) (404) 腎臓病(腎臓病) (405) 腎臓病(腎臓病) (406) 腎臓病(腎臓病) (407) 腎臓病(腎臓病) (408) 腎臓病(腎臓病) (409) 腎臓病(腎臓病) (410) 腎臓病(腎臓病) (411) 腎臓病(腎臓病) (412) 腎臓病(腎臓病) (413) 腎臓病(腎臓病) (414) 腎臓病(腎臓病) (415) 腎臓病(腎臓病) (416) 腎臓病(腎臓病) (417) 腎臓病(腎臓病) (418) 腎臓病(腎臓病) (419) 腎臓病(腎臓病) (420) 腎臓病(腎臓病) (421) 腎臓病(腎臓病) (422) 腎臓病(腎臓病) (423) 腎臓病(腎臓病) (424) 腎臓病(腎臓病) (425) 腎臓病(腎臓

万国外科学会の規約抜粋

ISS (SIC) の規約について

会員各位には、すでにスイスの本部から規約を含んだ小冊子が、配布されていると思います。日本支部ニュース発行にあたり、その中で会員の資格、権利等に関する部分を抜粋しました。日本語訳もつけましたので、会員の勧誘などにご活用下さい。

ARTICLE III-MEMBERSHIP

Section 1-Categories

The category of membership shall be Active, Senior and Honorary.

Section 2-Qualifications

All members shall be medical doctors who have received training in a field of surgery and are or have been engaged as their main professional endeavor in a career involving a recognized field of surgery, including care of the critically ill and/or recognition of expertise in surgical research.

- Active Members (AM) shall be medical doctors of good ethical character who have distinguished themselves by well-recognized professional and/or scientific achievements in a field of surgery. Candidates for Active Membership should be members of one of the recognized national societies. Upon recommendation of a National Chapter (or of two Active Members for countries where there is no National Chapter), the Executive Committee can accept nominations for membership of individuals in fields of endeavor related to surgery. For medical reasons an Active Member may request in writing to the Secretary General that his/her dues be waived.
- Senior Members (SM) shall be members who have retired from active practice of surgery and who have been Active Members for at least 15 years. They must submit a request for Senior Membership status in writing to the Secretary General direct or through the National Delegate (or Chapter Secretary). For special reasons, the Executive Committee may confer Senior Membership to members having rendered special services to the SOCIETY and who terminate their professional activity after less than 15 years of Active Membership.
- Honorary Membership (HM) shall be awarded by the Executive Committee. Recipients shall be members of undoubted international reputation and who have rendered distinguished services to the SOCIETY.

Section 4-Rights and responsibilities of members

- Active Members (AM) must pay the dues and Chapter assessments established by the SOCIETY at its General Assembly. They may vote, serve as officers of the SOCIETY and serve on committees. They shall receive all publications of the SOCIETY, including WORLD JOURNAL OF SURGERY.
- Senior Members (SM) are not required to pay the dues and Chapter assessments. They may vote but may not serve as officers. They shall receive notifications of Congresses but not the publications of the SOCIETY without charge.
- Honorary Members (HM) have all of the rights of Active Members. They are not required to pay dues or assessments. They shall receive all of the publications of the SOCIETY without charge.
- Resignations from the SOCIETY must be submitted in writing to the National Delegate and to the Secretary General at least 3 months prior to the end of the year. Annual dues must be paid in full to the end of the year of resignation.
- Failure to pay annual dues for 2 year—after due warning in writing—will lead to loss of membership. Exclusion from the SOCIETY will be communicated to the member in writing.

万国外科学会規約の日本語訳

第三章—会員

第1条 種類

会員の種類は、正会員“Active member”、特別会員“Senior member”、名誉会員“Honorary member”とする。

第2条 資格

すべての会員は、外科領域で訓練を受け、重症患者の治療や外科研究の専門的技術などの外科学に必要な分野で専門家であり、現在（あるいは、これまで）外科を専門職としている医師でなければならない。

- 正会員は、外科領域での専門技術あるいは学術的な業績で傑出しており、人格的にも尊敬される医師でなければならない。正会員の候補者は公認された全国的な学会の1つの会員でなければならない。各国の支部（ない場合には2人の正会員の）推薦によって、理事会は、外科に関連した分野での個人会員として、任命することができる。病気の場合には正会員は、会費納入の免除を、事務総長に書面で要求することができる。
- 特別会員は、外科臨床から引退し、正会員として少なくとも15年以上在籍した会員でなければならない。特別会員の資格の請求は、事務局長に直接、または国の代表者（あるいは支部の幹事）を通じて書面で申し込まなければならない。理事会は、本会に特別な貢献のある場合、正会員が15年未満のうちに専門職を引退したもののでも特別会員に認定できる。

- 名誉会員は理事会によって認められなければならない。対象者は、真に国際的に高く評価されていて、本会に著名な貢献をした会員でなければならない。

第4条 会員の権利と義務

- 正会員は、本会の総会で決められた会費と支部の維持費を納めなければならない。投票権をもち、本会の役員として務め、委員会へも出席できる。World Journal of Surgeryを含む本会のすべての出版物を受け取ることができる。
- 特別会員は会費や支部の維持費を納める必要はない。投票権はあるが、役員としては勤められない。学会の通知は受け取ることができるが、本会の出版物は料金を払わないと受け取ることはできない。
- 名誉会員は、正会員の権利をすべてもっている。会費や維持費も払う必要はなく、料金を支払わなくても本会の出版物をすべて入手できる。
- 本会からの退会は、その年度の終了する少なくとも3カ月以上前に、国の代表者と事務局長に書面で届け出なければならない。年会費は退会の年の終わりまでに納めなければならない。
- 書面で滞納の警告があった後、2年間会費を納めない場合には会員権を失う。本会からの除名は、書面で会員へ通知される。

（小高明雄、村田宣夫訳）

1996年 第1回万国外科学会日本支部総会議事録

1996年4月11日 幕張国際会議場

司会 山川達郎事務局長

※従来は「日本部会」あるいは「連絡会議」と称していたが、ISS 日本支部の正式発足に伴ない、この集まりを、「日本支部総会」と称することになった。

出席者：55名

議 事

- 日本代表挨拶 比企能樹
- 万国外科会長挨拶 出月康夫
- 日本支部機構および役員の紹介と承認
詳細は万国外科日本支部ニュース 第2号参照
他に第1回日本支部幹事会で大阪社会医療センター、佐竹克介先生および埼玉医科大学 石田清先生が幹事に推薦され承認された。

4. 支部会費について

従来日本部会の通信費として2000円の会費であったが、日本支部として活動していくための支部会費を5000円としたいとの案が予算案の説明とともに事務局より提出され承認された。

1996 年度予算

収 入 の 部

前年度繰越金	545,393
年 会 費	1,250,000 (5,000×250)
計	1,795,393

支 出 の 部

会 議 費	300,000
通 信 費	250,000
印 刷 費	300,000
文 具 費	100,000
交 通 費	80,000
人 件 費	240,000
予 備 費	525,393
計	1,795,393

5. 2003年万国外科学会日本誘致断念について

出月先生、馬場先生より現在までの経緯の説明があり、討論の結果、誘致を断念することと決定した。

6. 万国外科学会名誉会員の推薦について

日本支部として名誉会員に慶応義塾大学名誉教授 島田信勝先生を推薦することが全会一致で決定した。島田先生は1977年京都での第27回学会の際、財務委員長として、開催に寄与された。（1996年7月9日腎不全のため御逝去されました。ここに御冥福を祈ります）

7. 1995年度会計報告

収 入 の 部

前年度繰越金	619,422
年 会 費	288,000 (2,000×144)
ニュースレター 広告料	300,000 (4 社)
雑 収 入	77,000
利 子 等	3,892
計	1,288,314

支 出 の 部

会議費 (3 回分)	308,578
通 信 費	177,950
交通費、人件費	78,140
文 具 費	88,257
印 刷 費	51,500
雑 費	38,496
次年度繰越金	545,393
計	1,288,314

上記会計報告が承認された。

8. 日本支部規約について

日本支部規約について高見先生より報告があった。（詳細はニュースレターに掲載予定）

9. 1997年アカブルコ学会について

締切は1996年12月13日と決定、サーキュラーは現在準備中

10. その他

高見先生より会員募集状況について報告があった。阿部先生より World J. Surgery について日本は米国について採択率がよいとの報告があった。他学会の開催予定が報告された。土屋先生より総会の議題を先に連絡してほしいとの要望があった。曾我先生より日本支部発足の連絡を他学会へしたほうが良いとの意見がだされた。ニュースに会員の声の欄を作ってほしい旨の意見がだされた。

アカプルコ寸描

新潟大学
医療技術短期大学部
曾我 淳



広報委員会の村田先生よりご下命があり、昔々訪れたことのあるアカプルコについて古くても何か情報をお伝えしたいと資料を探してみましたが、遂に当時の記録を見つけたことは出来ませんでした。それで、20年以上も前の記憶をたどりながら断片的な事柄を書かせていただくことになりました。

1974年10月中旬にメキシコシティで第5回世界消化器病学会、下旬にイタリアのフィレンツェで第11回国際癌会議がありました。この両学会の合間の2・3日で学会発表の緊張をほぐすという大義名分をたててアカプルコに遊んだことがありました。メキシコシティでの発表が終了したあとでレンタカー2台、一行6人というパーティで約300kmの山道を走りました。空路では当時でも1時間足らず、また現在は高速路(MEX95)があり、車で片道約4時間だそうです。当時は道も悪く、レンタカーも古びたもので、途中でエンストを起こしたり、こんな山中には山賊がいるかも知れないと脅かされたりしながら、山中の山道、谷道を夕方は西日を受けながら走りました。何もそんなにしまでレンタカーで走ることもあるまいということでしょうが、何しろ20年以上も前のことですから、私や同行の連中もまだ若く、少しは冒険もしたかったのでしょう。アカプルコに着いた時にはもう日はドップリと暮れていました。当時でもさすがに有名リゾートエリアの見事な夜景を実感させられました。

翌日は、学会の緊張をほぐすための日ですから、それにそったスケジュールをこなしました。アカプルコにはほとんど雨が降らないということで、多分現在でもそうであろうと思いますが、長いビーチに囲まれたア

カプルコ湾の水も、強い太陽の光を降り注ぐ空も文字通りに紺碧というに相応しく、湾添いの家並みも開放的で明るい街でした。ウインドサーフィン、とくにここが発祥地といわれるウォータースキーやパラセーリングなど砂浜で寝そべりながら見物しているだけでレクゼーションの効用は十分のようでした。しかし何といってもここで見逃せないのは、ラ・ケブラダといわれる cliff diving でしょう。すばらしく日焼けした若者が約40mの高さの絶壁から紺碧の海に向かって見事な飛び込みを披露します。当時はそれぞれ小舟に乗って飛び込みの現場をごく近くでつぶさに見学しましたが、現在は近くのホテルのバルコニーからも見ることが出来るようです。この cliff diver は少年達にとってはあこがれの的といわばヒーローです。日本でいえば野球の有名選手のようなものでしょうか、5m、10m程度の崖から飛び込みの練習をしている子供達をあちこちで見かけました。

メキシコの国語はブラジル以外の中南米諸国と同様にスペイン語ですが、各国からの訪門者が多いのでいろいろな言葉が使われておりました。アカプルコには日本からの船乗り達が生しばしば寄港するようで、地元の人々も多少の日本語を覚えており、時々街角などで片言の日本語（せいぜい単語程度ですが）で話し掛けられたりしました。

来年、第37回万国外科学会がアカプルコで開催されますが、人集めとはいえ上のように楽しいことの多い場所では、学会場内の椅子があきすぎるのではないかと若干懸念しております。しかし、この学会のあとメキシコの南東にあるユカタン半島への旅行は、今でも当地で語りぐさになっていると伝えられる野口英世が黄熱病を研究したメリダのオーラン病院、占星術を中心とした進んだ文化と未解決の不思議を満載したマヤ遺跡（参考：「神々の指紋」/翔泳社）など、我々日本人がなかなか勉強の機会に恵まれない処を訪れるのも貴重な経験になるように思います。この機会を逃されないように今から計画をされることをお勧めします。

（8. 8. 29記）

いるのでリゾートになれていない日本人（筆者だけかもしれないが）にとっては充分すぎる。

食べ物とは当たり前であるがメキシコ料理。ビーチリゾートなので新鮮なシーフードがおすすめ。ホテルのレストランのほかに気軽な Taqueria（タコス屋）が至る所にある。

マリンスポーツとしては水上スキー、ジェットスキー、ダイビング、パラセーリング、フィッシングなどなんでも揃っている。ホテル内のデスクだけでなくビーチで直接申し込めるので便利である。もちろんホテルの前はビーチで、一日中楽しめる（中身は本人次第?）。日本でよく見るアカプルコの写真で有名なのはケブラダの崖の飛び込みであろう。筆者はひょんなことからジャンパーと知り合いになり、招待された特別席から見物させてもらったが、写真から想像できないほど危険なショーで観客はハラハラドキドキしながら（でも口はしっかりソフトクリームを楽しんでいる!）また、多くの発展途上国でそうであるようにタクシーの料金は交渉しだいで、1/4から1/5となることを後で知った（悔しい!）。



写真1



写真2



写真3

写真1 Acapulco Convention Center 正面噴水がまぶしい
写真2 学会会長の Dr. Trovama とカジュアルな雰囲気 /
写真3 上空5000mよりアカプルコを望む

歴代の万国外科学会会長

万国外科学会の歴史の一端を会員の方々に知っていただくために、あらためて、歴代会長を掲載いたしました。

SOCIETY PRESIDENTS

of the

INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY / ISS
SOCIÉTÉ INTERNATIONALE DE CHIRURGIE / SIC
1902 - 1973

Period of Presidency	Name	City & Country
1902 - 1929	Charles Willems	Brussels, Belgium
1929 - 1905	Jean Verhoogen	Brussels, Belgium
1951 - 1962	Robert Danis	Brussels, Belgium
1963 - 1965	Fritz Albert	Brussels, Belgium
1965 - 1968	Paul Martin	Brussels, Belgium
1969 - 1973	Paul Lorthioir	Brussels, Belgium

CONGRESS PRESIDENTS

1905 - 1973

ISS-Congress	Year & place of Congress	Name of President	City & Country
1st Congress	1905 in Brussels	T. Kocher	Berne, Switzerland
2nd Congress	1908 in Brussels	V. Czerny	Heidelberg, Germany
3rd Congress	1911 in Brussels	J. Lucas-Championnière	Paris, France
4th Congress	1914 in New York	A. Dpage	Brussels, Belgium
5th Congress	1920 in Paris	W.W. Keen	Philadelphia, USA
6th Congress	1923 in London	W. MacEwen	Glasgow, Great Britain
7th Congress	1926 in Rome	D. Giordano	Venice, Italy
8th Congress	1929 in Warsaw	H. Hartmann	Paris, France
9th Congress	1932 in Madrid	E. de Quervain	Berne, Switzerland
10th Congress	1934 in Cairo	J. Schoemaker	The Hague, Netherlands
11th Congress	1938 in Brussels	R. Matas	New Orleans, USA
12th Congress	1947 in London	L. Mayer	Brussels, Belgium
13th Congress	1949 in New Orleans	G. Grey Turner	London, Great Britain
14th Congress	1951 in Paris	R. Leriche	Paris, France
15th Congress	1953 in Lisbon	R. dos Santos	Lisbon, Portugal
16th Congress	1955 in Copenhagen	E.A. Graham	St. Louis, USA
17th Congress	1957 in Mexico	W. Denk	Vienna, Austria
18th Congress	1959 in Munich	P. Mirizzi	Cordoba, Argentina
19th Congress	1961 in Dublin	E. Dahl-Iversen	Copenhagen, Denmark
20th Congress	1963 in Rome	A. Ochsner	New Orleans, USA
21th Congress	1965 in Philadelphia	P. Valdani	Rome, Italy
22nd Congress	1967 in Vienna	P. Sandblom	Lund, Sweden
23rd Congress	1969 in Buenos Aires	R. Fontaine	Strassburg, France
24th Congress	1971 in Moscow	B.W. Petrovsky	Moscow, USSR

1973 Change of the Constitution—the Congress President will take office as Society President at the General Assembly of the Congress
(1973年以後は、規約が改正され、学術集会の会長が、万国外科学会の会長職も行うこととなった。)

CONGRESS & SOCIETY PRESIDENTS

of the

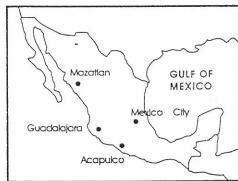
INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY / ISS
SOCIÉTÉ INTERNATIONALE DE CHIRURGIE / SIC
1973 - 1999

Congress President at	Society President Name during	City & County
25th 1973 in Barcelona	1973-1975	F. Linder Heidelberg, Germany
26th 1975 in Edinburgh	1975-1977	F. Gerbode San Francisco, USA
27th 1977 in Kyoto	1977-1979	T. Holnes-Sellors Aylesbury, UK
28th 1979 in San Francisco	1979-1981	M. Allgöwer Basel, Switzerland
29th 1981 in Montreux	1981-1983	M. Mercadier Paris, France
30th 1983 in Hamburg	1983-1985	Tan Sri G.B. Ong Hong Kong
31th 1985 in Paris	1985-1987	J.D. Hardy Jackson, USA
32th 1987 in Sydney	1987-1989	S.-E. Bergentz Malmö, Sweden
33th 1989 in Toronto	1989-1991	J.F. Patiño Bogota, Colombia
34th 1991 in Stockholm	1991-1993	L.M. Nyhus Chicago, USA
35th 1993 in Hong kong	1993-1995	M. Trede Mannheim, Germany
36th 1995 in Lisbon	1995-1997	Y. Idezuki Saitama, Japan
37th 1997 in Acapulco	1997-1999	A.R. Brown Sydney, Australia

第37回万国外科学会議

- 37th World Congress of the International Society of Surgery -

会期：1997年8月24日～30日
於：アカプルコ コンベンションセンター、メキシコ
抄録締切日：1996年12月13日



ACAPULCO '97

- ◆先生はどちらのホテルをお選びになりますか？
①市の中心で会場まで徒歩圏内のハイアットリージェンシーホテル
②ヘッドクォーターのアカプルコプリンスホテル（市の中心より車で10分）
弊社はどちらのホテルも相当数確保しております。
◆もちろん、弊社は抄録・登録のご発送のお手伝いも承っております。

お申込み、お問い合わせは下記へ

旅行と会議のプロフェッショナルオーガナイザー
株式会社 **ワールドミーティング**

運輸大臣登録一般旅行業第1410号
〒160 東京都新宿区新宿1-29-16-201 TEL: 03-3350-0363 FAX: 03-3341-1830
万国外科学会議 係
担当：池田正信、松村貞章、畠中博基、岩崎淳子